



【2018年1月15日～1月19日】

1. 先週の市場動向

【先週の市場の振り返り】

<株式>	先々週末 2018/1/12	先週末 2018/1/19	前週比
NYダウ (米国)	25,803.19	26,071.72	1.04%
日経平均株価 (日本)	23,653.82	23,808.06	0.65%
DAX指数 (ドイツ)	13,245.03	13,434.45	1.43%
FTSE指数 (英国)	7,778.64	7,730.79	▲0.62%
上海総合指数 (中国)	3,428.94	3,487.86	1.72%
香港ハンセン指数 (中国)	31,412.54	32,254.89	2.68%
ASX指数 (豪州)	6,070.05	6,005.81	▲1.06%
<リート>	先々週末	先週末	前週比
S&Pグローバルリート指数	178.57	179.85	0.72%
<債券> (利回り) (%)	先々週末	先週末	前週差
米国10年国債	2.546	2.659	0.113
日本10年国債	0.078	0.085	0.007
ドイツ10年国債	0.581	0.568	▲0.013
英国10年国債	1.339	1.337	▲0.002
<為替>	先々週末	先週末	前週比
ドル円	111.06	110.77	▲0.26%
ユーロ円	135.50	135.45	▲0.04%
ユーロドル	1.2202	1.2222	0.16%
豪ドル円	87.92	88.53	0.70%
<商品>	先々週末	先週末	前週比
商品 (CRB指数)	196.06	195.50	▲0.28%
原油先物価格 (WTI)	64.30	63.37	▲1.45%

<株式>

主要国の株式市場は、英国と豪州を除いて上昇しました。米国株式市場は、税制改革による景気拡大期待や米主要企業の2017年10-12月期決算が概ね好調な出足を見せたことなどから、NYダウは週間では1.04%し、最高値を更新しました。日経平均株価は米国株高を好感して24,000円台を上回る局面もありましたが、その後は円高警戒から利益確定売りが広がり、週間では小幅な上昇となりました。欧州株式市場では、英国FTSE指数は、ポンド高や原油安を嫌気して、小幅に下落しました。独DAX指数は、ユーロ圏の景気拡大期待などを背景に上昇しました。中国株式市場は、世界的な株高や17年のGDP成長率が6.9%と市場予想を上回ったことなどを好感して、上海総合指数は5週続伸しました。香港ハンセン指数も6週続伸しました。

<債券>

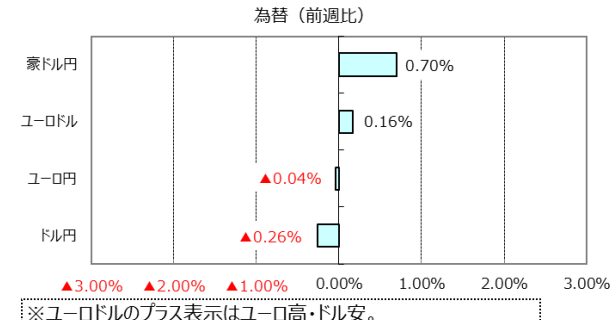
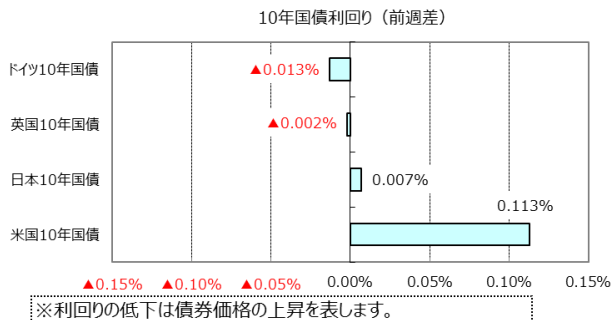
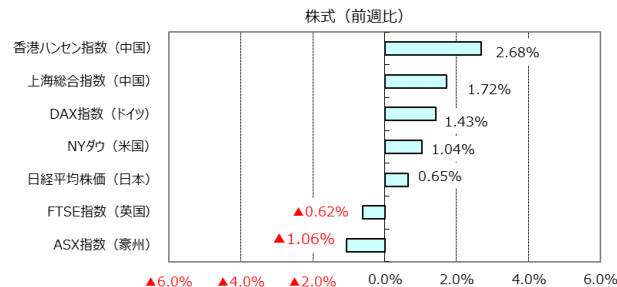
主要国の10年国債利回りはまちまちの動きとなりました。米国の10年国債利回りは、米国の大企業から法人税減税を受けた国内雇用や投資の拡大表明が続き、景気拡大期待が高まったことや、株高などを背景に週間では0.113%上昇しました。ドイツ10年国債の利回りは独連立協議への不透明感などから週間では0.013%低下しました。英国の国債利回りはほぼ横ばいとなりました。日本の10年国債利回りは小幅上昇しました。

<為替>

円相場は、対ドルで小幅上昇、対ユーロはほぼ横ばいとなりました。対ドルでは米国の10年国債利回りが上昇し2.6%を上回ったことなどから、一時111台半ばまで円安が進みましたが、19日に失効する2018年度暫定予算案の採決を巡り、米政府機関の閉鎖懸念が強まったことなどから伸び悩み、週間では、0.26%の円高ドル安となりました。

<商品>

原油は、米国でのシェールオイルの増産懸念や高値警戒感などから63.37ドルに下落しました。



(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



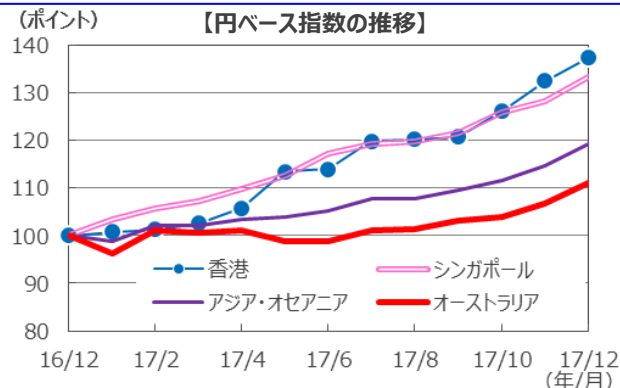
【2018年1月15日～1月19日】

2. 先週のマーケット・デイリー/ウィークリー

	テーマ	ポイント
1/15 (月)	先週のマーケットの振り返り	2018/1/8～1/12 マーケットの振り返り
☆	アジア・オセアニアのリート市場の動向 (2017年12月)	1. 12月も堅調地合いが続く、景気回復や好業績を好感 2. 17年の騰落率は大幅上昇、世界の主要リート市場の中で突出
1/16 (火)	17年の香港、シンガポール市場は3割を超える上昇	3. 【好業績や相対的に良好な財務状況から堅調持続】 アジア・オセアニアのリート市場は、着実な業績拡大が続くことが期待されます。また、財務状況が良好であるため、投資家の評価が一段と向上する可能性があり、引き続き堅調な展開が期待されます。
1/17 (水)	2018年も好調な米国企業業績見通し 2018年は2桁増益セクターが増加	1. 10-12月期の業績は好調、エネルギー、素材、情報技術がけん引 2. 「金融」の増益に注目、足元の1株当たり予想利益も大幅上昇 3. 【2桁増益セクターが増加、法人税率引き下げで利益押し上げ】 2018年も2桁の増益が続く見通しです。法人税減税は、中小企業の業績にプラスの効果をもたらすとともに、「金融」や「輸送用機器」などのセクターも恩恵を受けると考えられます。
☆	ブラジルの経済・市場動向 (2018年1月)	1. 株価は最高値更新、レアルは底堅い動き 2. S&Pがブラジルを格下げ、市場への影響は限定的
1/18 (木)	株式は上昇基調、通貨は横ばい圏の動き	3. 【株式は堅調維持、レアルは上値の重い展開】 ブラジルの株式市場は、景気回復や資源価格の上昇を背景に投資資金の流入が続く、堅調な展開が期待されます。ブラジルレアルは、他の格付け機関も格下げに動く可能性があり、当面上値の重い展開が見込まれます。
1/19 (金)	成長が加速した中国経済 (2018年1月) 17年の成長率は6.9%、7年ぶりに前年を上回る	1. 17年のGDPは6.9%成長、7年ぶりに前年を上回る 2. 12月の生産、投資はしっかり、小売売上高は減速 3. 【18年は情報技術産業が景気を下支えしよう】 18年は、習近平指導部が企業債務の削減や環境規制の強化を掲げる一方で、中央経済工作会议では質の高い経済成長を目指すことを決定しており、情報技術産業の高成長が景気の下支え要因として働くことが見込まれます。

☆先週の市場動向に関連する代表的な「グラフ・図表」

☆1/16アジア・オセアニアのリート市場の動向 (2017年12月)
17年の香港、シンガポール市場は3割を超える上昇



(注) データはS&P先進国REIT指数の各国・地域REIT指数 (配当込)。2016年12月末～2017年12月末。2016年12月末を100として指数化。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

☆1/18 ブラジルの経済・市場動向 (2018年1月)
株式は上昇基調、通貨は横ばい圏の動き



(注1) データは2015年1月1日～2018年1月16日。
(注2) (レアル/米ドル) は逆目盛。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

☆ は右の「グラフ・図表」を参照。



【2018年1月15日～1月19日】

3. 今週の主な注目材料

日付	米国	日本	欧州	アジア・オセアニア・その他
1/22 (月)		12月コンビニ売上高		
1/23 (火)		日銀金融政策決定会合☆ 11月全産業活動指数 12月百貨店売上高	独1月ZEW景況感調査	
1/24 (水)	1月マークイット製造業・サービス業・総合PMI 12月中古住宅販売件数	12月貿易収支 1月日経製造業PMI	ユーロ圏1月マークイット製造業・サービス・総合PMI 英ILO11月失業率	豪12月ウエストバック景気先行指数
1/25 (木)	12月新築住宅販売件数		欧州中銀 (ECB) 理事会☆ 独1月IFO企業景況感指数	
1/26 (金)	10-12月期GDP☆ 12月耐久財受注	12月消費者物価指数 12月企業向けサービス価格指数	英10-12月期GDP ユーロ圏12月マネーサプライ	ブラジル12月経常収支☆
☆ 今週の注目点	今後の経済動向や金融政策を占う上で、10-12月期GDPなどが注目されます。	今後の金融政策を占う上で、日銀金融政策決定会合でのコメントなどが注目されます。	今後の金融政策を占う上で、欧州中銀 (ECB) 理事会でのコメントなどが注目されます。	ブラジルの今後の景気や為替動向を占う上で、ブラジル12月経常収支などが注目されます。

※各経済指標・イベントは予定であり、変更されることがあります。

弊社マーケットレポート

検索!!

先週の注目の「マーケット・デイリー」

2018年1月18日 [ブラジルの経済・市場動向 \(2018年1月\)【デイリー】](#)

2018年 1月16日 [アジア・オセアニアのリート市場の動向 \(2017年12月\)【デイリー】](#)

先週の「マーケット・ウィークリー」

2018年 1月 15日 [先週のマーケットの振り返り \(2018/ 1/ 8- 1/ 12\)【ウィークリー】](#)

先月の「マーケット・マンスリー」

2018年 1月 9日 [先月のマーケットの振り返り \(2017年12月\)【マンスリー】](#)

先週の注目の「マーケット・キーワード」

2018年 1月16日 [『街角景気』前月から低下水準を維持【キーワード】](#)



【2018年1月15日～1月19日】

【重要な注意事項】

【投資信託商品についてのご注意（リスク、費用）】

●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等（外貨建資産には為替変動もあります。）の影響により上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、投資信託は**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。

●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

◆直接ご負担いただく費用 … 申込手数料 **上限3.78% (税込)**

… 換金（解約）手数料 **上限1.08% (税込)**

… 信託財産留保額 **上限3.00%**

◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用 … 信託報酬 **上限年 3.834% (税込)**

◆その他費用 … 監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、あらかじめその上限額、計算方法を具体的に記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由によりあらかじめ具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面等を事前に必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

〔2017年5月31日現在〕

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。